

今日のトピック 米国の金融政策（2017年5月） 6月追加利上げが視野に

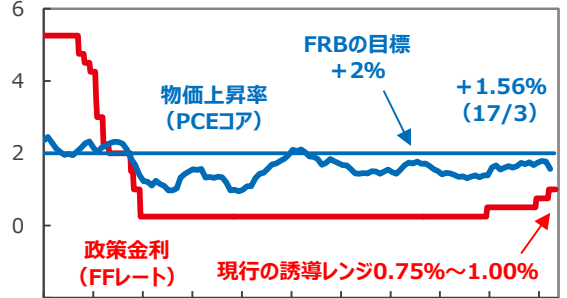
ポイント1 政策金利を据え置き

- 5月2日、3日に開催された米連邦公開市場委員会（FOMC）は、市場の予想通り政策金利（FFレート）の誘導レンジを0.75%～1.00%に据え置くことを決定しました。

ポイント2 経済指標の変調は一時的

- 米国経済は、1-3月期のGDP成長率が前期比年率+0.7%にとどまるなどやや悪化しかけている印象がありました。今回の声明文では足元のこうした環境に対してどのような評価を示すかが注目点でした。
- 声明文では、「1-3月期の成長率は減速したが一時的と見ており、緩やかな金融緩和状態の是正とともに、経済活動は緩やかなペースで拡大を続け、労働市場はさらに幾分強まり、物価は中期的に2%近辺で安定するであろう」としました。米連邦準備制度理事会（FRB）は直近の経済指標の変調を一時的と評価したもようです。5月の声明文を見る限り、3月時点から参加者の経済見通しが変化したとの兆候は見られませんでした。

【政策金利と物価上昇率の推移】



(注1) FFレートは2007年1月5日～2017年5月5日。2008年12月以降のFFレートは誘導レンジの上限を表示。
(注2) 物価上昇率は2007年1月～2017年3月。PCE（個人消費支出）コア物価指数の前年同月比。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

【米連邦公開市場委員会（FOMC）参加者の経済見通し】

項目	開催月	2017年	2018年	2019年
GDP成長率	3月	2.1	2.1	1.9
	(%)	12月	2.1	2.0
失業率	3月	4.5	4.5	4.5
	(%)	12月	4.5	4.5
物価上昇率	3月	1.9	2.0	2.0
	(%)	12月	1.8	2.0
FFレート	3月	1.4	2.1	3.0
	(%)	12月	1.4	2.1

(注) FOMCメンバー予測の中央値。GDPと物価上昇率は第4四半期の前年同期比。物価上昇率はPCE（個人消費支出）コア物価指数の上昇率
(出所) FRBの資料を基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 6月、12月に利上げ、年明けバランスシート政策の変更見通し

- 市場の利上げ期待も高く（FF金利先物市場から算出される6月の利上げ確率は98%程度、5月5日現在）、FOMCが6月に追加利上げを選択する可能性が視野に入ってきました。
- その後の年内の利上げは12月と考えられます。米国経済は、循環的に徐々にピークアウトすると見られ、年後半に入れば、現在より減速感が浮上する

と思われます。その際に、政治的な不透明感が重なれば、FRBとして1回ぐらい（9月）利上げをスキップすることもありそうです。その後は景気対策の発動なども期待されることから、利上げ再開は12月と考えられます。注目のバランスシートの縮小（保有証券の再投資政策の停止）は、18年3月から開始される見通しです。

ここもチェック! 2017年5月8日 良好さを維持する米国の雇用統計（2017年4月） 2017年5月1日 米国のGDP成長率（2017年1-3月期速報値）

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。